

例にリンパ球増加が認められ、うち3症例に異型リンパ球が認められた。また肝機能については、極軽度のものから、重症までの種々な程度の GOT, GPT, LDH の上昇が認められた。

また血清生化学的には、Paul Bunnell 反応は全症例に施行されているが、14倍から896倍であった。さらに EB ウイルス抗体価について検索しているものは、5症例のうち3症例であったが、そのうち1症例は、抗体価上昇は認められなかった。5症例のうち4症例は、2～3週の経過にて軽快したが、術直後より発熱が続いた1症例は4週と経過は長かった。

## 2. アトピー性皮膚炎にみられる細胞性免疫異常 (皮膚科)

○檜垣 祐子・川上 理子・肥田野 信

末梢血中リンパ球サブセットが異常で単純ヘルペスや黄色ブドウ球菌などによる感染症を反復したアトピー性皮膚炎の2例を経験した。マイトジェンによるリンパ球幼若化試験では、Con A, PHA とも低下はみられなかった。T細胞, B細胞百分率では、B細胞がやや低下の傾向を示した例があった。モノクローナル抗体によるリンパ球サブセットの解析では、アトピー性皮膚炎患者における従来の報告とは異なり、OKT4の低下, OKT8の上昇がみられ、従って OKT4/OKT8比は著明に低下していた。一般に細菌感染症では OKT4/OKT8比は上昇, ウイルス感染症では低下するという報告があり、アトピー性皮膚炎においても感染症を合併することに伴ってこれらの値に変動がみられると思われた。OKT4/OKT8比の低下が、一次的なものか、反復する感染の結果であるかは不明である。

## 3. 外陰 herpes 慢性化の risk 要因 (産婦人科)

○滝沢 憲・横尾 郁子・磯野 聡子・  
稲生由紀子・井口登美子・武田 佳彦

1985年5月より1986年4月までに、当科のSTD (Sexually Transmitted Disease) 専門外来に登録された Virus 感染症は93症例である。内訳は、Human Papilloma Virus (HPV) 又はその類縁 Virus による感染症、Condyloma Acuminatum 及び小陰唇内側乳頭腫が59例であり、Herpes Simplex Virus (HSV) Type 1 又は Type 2 による感染症、外陰 Herpes は34例であった。外陰 Herpes は、発症機転、臨床症候、血清抗体価等から急性初発型、慢性再発型、妊娠・放射線治療等に伴う誘発型及び無症候型に分類されている。当科の34例中、初診時に病型分類できたものは30

例で、急性初発型21例、慢性再発型8例及び誘発型1例であった。急性型21例中の3例は6カ月以内に再発しており、慢性型8例中5例も再発前半年以内に急性外陰ヘルペスの既往があった。急性型21例の Herpes 病変占拠部位であるが、高熱を伴う広汎な外陰炎、腔炎、子宮頸管炎及びソ径リンパ節炎は、各々11例(52%)、13例(62%)、10例(48%)及び20例(95%)であった。慢性型11例では、片側ないし両側に単発又は数個の水疱びらん面を認めるのみであるが、リンパ節炎は5例(45%)に認めた。なお、抗 Herpes CF 抗体の陽性率は、急性型の初診時は0であるのに対し、慢性型では7/11(64%)で陽性であった。

細胞性免疫能の指標として検討した OKT4/T8値、それが1.0未満の頻度、NK細胞活性は、急性型では、 $1.78 \pm 0.68$ , 1/13(8%)、 $24 \pm 18$ であったのに対し、慢性型では $1.23 \pm 0.83$ , 4/7(57%)、 $15 \pm 9$ と、慢性型で T4/T8の低値を示すものが多かった。急性型として初発し後に慢性再発型に移行した3例で特徴的なことは、2例が神経症状(髄膜炎1例、末梢神経炎1例)を伴っており、抗 Herpes CF 抗体価の上昇不良であったことである。慢性型では、HSV は末梢神経節に潜伏感染しているため、神経症状が慢性化の High Risk であることは興味深い。又、T4/T8値が1.0未満、抗 Herpes CF 抗体価上昇不良も Risk 要因と思われた。

## 4. 腎移植後の感染症

(腎センター外科・泌尿器科)

○八木沢 隆・高橋 公太・寺岡 慧・  
瀧之上昌平・本田 宏・中沢 速和・  
東間 紘・吉田美喜子・阿岸 鉄三・  
太田 和夫

腎移植の予後を左右する2大合併症は拒絶反応と感染症である。最近、新しい免疫抑制剤 ciclosporin の開発により、拒絶反応による移植腎の喪失は減少し、感染症をいかに克服するかがその成績の向上の重要なポイントとなってきた。

今回は腎移植直後の感染症について紹介し、また従来の azathioprine (AZ) を主体とした治療群と ciclosporin (CYA) 治療群における感染症について比較検討した。

対象と方法

当センターで1985年6月までに腎移植をうけた349例を対象とした。使用した免疫抑制剤により2群に分けて検討した。すなわち1983年1月までに AZ を主体